

## 平成 25 年度 環境技術実証事業ヒアリング調査結果（有機性排水技術分野）

平成 26 年 2 月 28 日

平成 24 年度に実施した自治体向けのアンケート調査では、ETV の認知度が 36.3%であった。しかし、環境技術を必要とする場面があると回答が 50.5%であったことから、より ETV が効果的に活用してもらうために個別に意見を調査した。この結果のうちニーズについては、広報資料などに掲載し市場で要求されている技術を知らせ、実証試験の公募の推進につなげていく。なお、湖沼等水質浄化技術分野と同時にヒアリングしている。（参考：湖沼等水質浄化技術分野の平成 24 年度のアンケート結果では、認知度 47.5%、環境技術を必要とする場面があると回答が 54.1%であった。）

調査期間：平成 25 年 11 月 5 日～平成 26 年 1 月 24 日

調査対象：平成 24 年度環境技術実証事業（ETV）アンケートの調査に回答した地方自治体  
調査件数：18 件

※（ ）内は回答数で、重複あり

## 1. 環境技術が必要となる場面で具体的な事例はあるか（事業場等やきっかけ）

## (1) 事例

小規模の飲食店（7：ケーキ屋、ファミリーレストラン、ラーメン店、牛丼屋）、食品製造業（2：糖蜜を製品とする事業者など）、スーパー（2）、クリーニング業、病院、バイオエーゼル精製の排水(小規模事業場)

## (2) きっかけ（原因とカウントが重複）

管の閉塞（5）、油分（2：下水道処理施設への油の流入）、基準値超過が改善されない、悪臭（2）、苦情（2）、立入（8：発注部局に同行、オゾンの泡により越流していた）

## 2. どのような環境技術が求められることがあるか（規制基準超過や苦情が多い項目とこれらの指導内容）

## (1) 規制基準超過や苦情が多い項目

動植物油脂（10）、BOD（6）、悪臭、pH、頻繁に困る事例はない

## (2) 規制基準超過や苦情の指導内容

基準超過の改善（8）、指導している（5：効果のない技術の取り外し、グリストラップ清掃、処理能力の向上、維持管理）、詳細な指導はしていない・できない（5）、小規模事業場なので規制できない（2）

(具体的回答の抜粋)

- ・小規模が多いので、問題のあることを伝え対策をお願いする程度しかできない。
- ・ラーメン屋などではバケツに汁を溜め、浮いた脂とゴミを廃棄してから排水するよう指導している。
- ・下水道管理課と共にグリストラップの適正管理を中心に指導している。
- ・糖蜜業者はスペースが無く、処理設備の増設ができない状況で、極力糖蜜をこそぎ落とし、洗浄排水に混入しないよう県が指導し、対策を検討中。

3. 技術を求める際のポイントはどのような事項であるか（低コスト、効果に欠けると思われる技術の存在）

(1) コスト面

価格を観点に検討していない・機会がない (2)、閉塞時の清掃費用と比較（1回 10 万から 20 万円）、100 万以下

(具体的回答の抜粋)

- ・市では近年排水管の閉塞に伴う洗浄について、初回は大目に見るが、2回目以降原因者負担に切替えた。そこで、洗浄費用 10 万から 20 万（洗浄距離による）の負担となることから、その費用を考えれば対策を講じた方が得と伝える。
- ・コストは低い方が良いと思うが、産廃業者などはお金があるようで、手間のかからない技術であれば導入するのでは？
- ・事業者が大手なので資金はあるはず。

(2) 効果に欠けると思われる技術

効果に欠けると感じることもある (3)、わからない (2)、見る機会がない (2)

(具体的回答の抜粋)

- ・特に技術的な売込みを受け付ける部署ではないのでわからない。
- ・某ショッピングモールで1台 70 万する装置を 11 台グリストラップに設置したが、効果が無かった。現在は他の技術を導入したが、今でも基準超過が見られる。(中略) また別のショッピングモールでは処理施設を倍増させ、公共下水道管の閉塞は解消されたが、依然として脂の基準超過は治まらない。
- ・処理設備を増設するケースは良く見かける。
- ・技術的な内容は判断がつかない。